

平成 28 年度岡山 ESD 推進協議会

岡山 ESD プロジェクト活動支援助成金事業報告書

事業名 ライフスタイルを彩る教養講座 VOL6 もしも地球が立方体だったら+星空観望会団体名 食と大学を通して人を学ぶ会担当者名 坂本清美

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

日時：2016 年 12 月 4 日（日）17：00～19：00

対象：小学生とその保護者、中学生対象 100 名先着順

内容：①35 センチ望遠鏡を用いた金星観望、②音楽演奏（岡山大学弦楽四重奏）、③出前講座「もしも地球が立方体だったら」DVD



上映、④出前講座 准教授はしもとじょーじ先生⑤折り紙ワークショップ「折り紙 DE 立方体地球儀をつくってみよう!」、星空観望会（月・火星・すばるなど）解説（岡山大学理学部地球科学技術専門職員 藤原貴生先生）当日は雨天のため、①以外のプログラムを実施した。参加者は 86 名（スタッフを含め約 100 名）と盛況だった。参加者は、雨天ではあったが、出前講座の際しか視聴することができない DVD 鑑賞、はしもと准教授による金星探査の最前線の話を中心に聞いていた。タジックアースを見ながら当日見えるはずの星の解説や、折り紙を楽しみ、最後に希望者は藤原先生に質問をした。



2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

天体観測は、幼児期から親子ですることが可能であり発達段階に応じて継続的に誰でも楽しめるところが、ESD の視点にあっていると感じた。内容として、「もしも地球が立方体だったら？」と前提に対する問いかけをテーマに、DVD 視聴、出前講座の流れで、参加者には、普遍的である自然の中で生きていて、地球の未来像に対しイメージを持たせることができたのではないかと感じた。タジックアースを使用した星の解説により、日々変わる天体の存在から、過去・現在・未来の時間軸に生きている自分たちのことを感じられたのではないかと感じた。さらに、親子で自然を感じる時間、普段会ったことのない子どもたち同士で過ごす時間があることで相互性を感じ、異世代の大学生、市民らのサポートを受け、地元企業からのお菓子、地元の大学 OB らの音楽演奏を楽しみ、参加者自身が学ぶことと地域社会とのつながりを意識してもらえるのではないかという気づきがあった。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

「近くにある大学に天文ドームがあるなんて知らなかった」参加者からは「音楽演奏、お菓子のプレゼントもあり、至れり尽くせりだった。雨を想定しての準備ありがとうございます」というお言葉をいただき大変好評でした。これにより、教室で学ぶ基礎的な知識の他に天体観測、折り紙、音楽と教科を超えた、市民・学生・大学関係者による学びの時間の提供ができたと感じた。尚、朝日新聞に掲載していただいた。

4. 今後の課題と展望

できるだけ広範囲の小・中学校へのチラシ配布を行ったが、2日後には、定員が埋まっており大変申し訳ないと思った。今回は複数の団体の協働であったため、周知のタイミング、関係者（教員・学生・団体員・市民）の連絡方法、協議時間帯等のすり合わせが難しかった。一方、雨天でも対応できる+アルファも踏まえたプランにしておいて本当に良かったと思った。その結果、地元企業の提供、雨天でも参加者が来てくださり、申し込みや当日対応で何らクレームもなくスムーズであったので、今後も問題なく実施できる手応えを感じた。今後は改善点を踏まえながら「生命に限りがあるので、モノで幸福を追求するには限りがある」といったところまで科学をテーマに感じてもらえるようなプログラムにしていきたいと思った。



